

# バストス週報

第二百六号  
昭和廿九年  
三月十四日  
発行

DIRECTOR  
KOITI MORI  
發行所  
RUA PRES.  
VARGAS 188  
REDATOR  
SHION ODA  
C.P. 112  
BASTOS

廣告は  
週報へ  
誌代  
一坪 60¢  
外部 70¢

## コチア産組バストス倉庫

### 代表者として就任の辭

畑中仙次郎

往年滿洲事務が凶弾に斃れバストス産  
業組合が混乱に陥り收拾のつかぬ状態に  
置かれた際、産業組合奨励局や中央会の要  
請もあり、私自体も当時組合員四百に餘  
る州銀差入れ担保のレトラが將來共バ  
トスの大きな痛となつて其の發展を阻害  
せん事を憂へて居つた矢先きとして、組合  
事業に對し何等の経験もない私の大膽に  
も其の真確中に疑ひ込んで二年間當分の  
人々の後援や、組合員の信頼の下に漸く  
其の目的を達成して組合員最大の悩みで  
あつた問題のレトラ全部を返還する事が  
出来て一応組合に入つた役目を果たしたが  
組合員も其の残めを望まぬ永居は無用と  
感じサツサと要職から退却した次第であ  
つたが、其の前後に直つてバストス産業  
の一元化を口にもし文章にも現して、總  
ゆる教會にバストス全体の方々に訴へた  
が一向に具體的な反響もないので、時機  
尚早でもあり、私もその柄でないと感じ  
爾末今日に至る迄口を緘して又語らず、  
遂には産業組合の話も遠い國の事を聞く  
よりの錯覚を起すに至つた。偶々田中以  
より来る半ばにはサンパウロの方へ移転  
せねばならぬ事情になつて居るので、テ  
ホジントを引受けぬか、然らば本部の方へ  
推薦するといふ交渉を受けたのが昨年未  
で誠に突然の事ではあり更にその意欲が  
進まず、遂にコチアになつて居つたが、回  
中氏より諄々とコチア産組の實態並にバ  
ストス倉庫の使命に對する説明があつた  
ので多少立ち入つて検討もして見た。  
元來奥地農業者が自己の立場を守る為  
めには大同團結より他に手段がないとい  
ふので産業組合が生れ、又遅滞き下ら  
A.R.E.S.P.や農村協会の如きが結成せら  
れ、広く農民運動が派興途上にある確信  
が農村の生くる唯一の道である確信  
するが、特に古いバストスの現状を見、  
將來を慮ふ時各人が産業組合精神に徹し  
て邁進する事が絶対的のものである。若  
し之れ無くしては愛する我が郷土もやが  
ては亡びる運命にあると追信して居る時  
コチア産組の救済、其の運営及伝統的  
に流れて居る一貫した組合と組合員の心  
構え等に觸れて見ると、取つて以て範とす  
る点が多々あることを知つた。例へば多



Alfaial Imperial マルヤマ洋服店

日本から新しい種子

## 大和西瓜

生産地  
兵庫村

採種 昭和廿八年九月  
發芽 八〇% 以上  
大根 白菜 コボリ 一功

## セボラ

モントセラット産

コーベ、フロール、レホーリヨ  
人蔘 其他 一功

美しい草花の種子 沢山つきました  
草花と野菜タネは

## ウエキ商店

頼なる積立金を本部に置いて全く高見に  
土持ち現場は吸はれる一方であるといふ  
様な事を日頃よく聞いたものであるが、  
組合が好大なる殖産方面に於ける施設や  
購買販賣其の他公益施設に對して完全を  
期する為の他の追従を許さぬ數々の建設  
費に投下されて居るもので、之れが結局組  
合員全部を潤はして其の福祉増進の資材  
である。換言すれば組合員は賣上代を可  
成多額に欲するであらうけれども先づ自  
己の立場を考へる前に順序として組合成  
立の主義や組合事業の理想的運営を考へ  
る可きで、凡てが充実に実現するまで  
に、誠心で来てお互ひが幸福になるとい  
ふ誠心で根本的に体得せねばなるまい。  
若し先づバストス自体に斯る施設を欲す  
るならば、先づ以て産業の一元化を實現  
して支那だけの資金を自ら活用してこ  
そ理想の境地に到達するであらう。支那  
近はせんで他を利用するより他に道がな  
いと思ふ。  
又或る友人は今更コチア産組に勝を屈し  
身売りして男を下ゆるような事は絶対に  
避く可きである。忠告して呉れたが、其  
の好意は難有いが大畧次の如く説明して  
置いた。  
……次頁上段へ……



つして頂き、あとでわぶく、こちらへ送つて下さいました。

私達は一生懸命に働き、又去来る大勉強もして立派な青年になろうと心に誓っています。講習生の中には二回三回と重ねて出席した人も多く、四十、五十の年長者も居られました。そういふ人も先生方と一緒に面白く食事もし、体様もしました。何だか別天地のような感じがしました。何をやるにも、時間通りか少しの無駄もななく進みました。バストスからもつとつと車配の方々に、行つて頂き、指導して頂くなら、吾々青年も、ホッと進歩するようになると思ひます。

これから色々な講習があると思ひます。去来る大勉強も、行つて勉強致しましよ。以上簡単ですが私の感想を申上げました。(了)

### 小店員 入用

十五、六歳の少年一、二名  
 商業を習つて将来に備える意志のある少年をお預り致します  
 (家庭的に優遇)

カグツツ  
 来合停泊場前  
 止々島商店

### プロレソラー 山本時子先生赴任

これ迄中央アルツホ校で教鞭をとって居た山本時子先生は本学期よりアルツホ校に赴任することとなり、去る三月四日祖父父母同伴転居された。同校は現在生徒数十五名、廿五年の歴史を有する学校であるが同じの居住者が近年急激に減じたので、次第に生徒の数もへってしまひ、昔を知る者には誠に今昔の感じさるるものがある。時子先生は両親は有名な俳人の秋職の任地さまりぬ摘菜汁 秋扇

### 日本語 道法教授

一 午後 五時より六時迄の間  
 中学生、家政女学校生徒の方、少しづつ日本語を習つておいて下さい

一 夜学 七時より八時半の間  
 親切に一人々々学力に応じて教へます

矢野 塾

### 弓場農場

はいけん 系音生

愈々弓場農場に乗込んだ。恰どカ右一の時間で大食堂でオハギをほくついている処であつた。吾々もそこでは北だ。私達は銭前一度ここを訪問したことがあるが、メーサやパンコも其の儘で黒光りに光沢が増していた。御大將の弓場勇氏は不在。代つて洪子夫人に挨拶した。洪子夫人は弓場氏がユバチムを引率してバストスへ遠征して来たことがあるが最初の時であつたと思ふ。弓場はユニホムに右手にバット、左手に洪子夫人の手を引いてさうさうとクルマから降りまつて「オイはまあやん、ここがバストスだよ」といつた。新婚平々の弓場君、バストス遠征に新婚を引連れて来て大いに怪しい処を只で見せてくれた。秀吉の小田原征伐、義仲の東都入城、何れも淀君や巴御前など引具した先例に従ひ弓場時代の創設者にこの事ある筈であたり前だ。文唱婦隨の古い世界から見ても美しい眺めであつた。その洪子さんも星うつり花散り、今やよいおはさんになつてしまひ「はじめまして」と言はれた一寸で飛くさうな勢いだつた。何故かといふと今夜は三度目だからである。

弓場氏が不在であつて師範代洪村氏が農場案内を下さる。「聖市のラドル氏の懐から電報が来て四五日前出かけたんです。農場の買戻しの話でね。二千セント位で話がつく人じやないかと思ひます。さうさうは、さうさう打弓場の帰らんとねえ。歩さずら洪村氏がいふ。此の人も三羽鳥の一羽だ相対技術家として重んじられてゐる。

木造平家ではあるが十米×四十米の大稽留場へ入る。盛んな時は十五六台のフラン機をトツカした事もある相だが今は立大台しか据つていない。(十台ある也)

本年は一週三千五百羽を維持する予定で既に準備完了され、五台を動かせば二日おきに四千羽の増を得ることが出来る。そのだだ広い運物の中央に白い大幕が垂れ下り、実は昨夜降つてねえ。道頓日本シネでも一月に二本は上映してゐるよ。ここは只だからね。大ていサバドには何かやるね。

それから幕のうしろには例のフスマの鞠が数ヶ所となく散らかしてある。手さしに入れて見ると、ほのかに熱がききとる。何ともいへないよい香りがする。

「本田君とこは水分が多すぎるんだ、と少くして見給へ、この通りになるよ」

本田正雄君は自分がイモ養鶏をやつてき  
るものだから、質問も熱心なものである。  
「大体ぼくんとこの箱は深さが一米位ある  
んだがそのせいかな」  
「何でまた深い箱造るんだ」  
「だって君が教へんじやないか」  
「馬鹿いえ、五センチの深さだ、君が十倍  
に浅いんだ、いや二十倍かやハ、い、い、い」

そこをみると発電所がある。ジーゼル十H  
Pとインターナルシリンダーセル三〇HP  
と二台据つてゐる。  
之より東に向つて五米×四の米の鶏舎が  
見えて、二〇棟並び、四ヶ月、五月月の若鶏が  
それぐ、整理されてゐる。

本田君は分農場でもホルミタベルを運送  
したがここでもワシカフルをくりかへし  
た。それ程鶏が美しいのである。とさか  
がユタ／＼と赤く、脚と嘴は濃黄、腰が  
張つて、歩く尻を振返かつこうである。  
どうしてこういふ立派なトリが出来たか  
だ。本田君がいふと、分農場で舎ちやん  
が左拳でホーンと右腕を叩いたが、ここでも  
浜村さんもとうたといふ顔をして、舎ちや  
んの通りのしぐさをした。自慢する時の  
リズムで規定してあるらしい。

今夜は甘藷畑である。見渡す限りの青  
毛氈十域位あるうかと思はれる見事なイ  
モ畑である。あちこち合計二十域位植之  
てあるだろうとの事である。不思議に雞  
単が生えていない。最初三回位地をトン  
バすると雑草が生えなくなる。そこへ衆  
場総出でイモを採る。振と下したこ  
ろ一回除草すると、人なまにきれいに養  
地面を離れてしまふといふ。

「肥料やりますか」  
「鶏糞をやります」  
何しろここはイモ養鶏であるから、イモ丈  
はいくらでも作りねばならぬ。従つて技  
術的にも非常に進歩してゐる。小供の頭  
位のイモは、普通で、拳大は小さい方で  
ある。イモ畑からは見えないうが、その外に  
ミ、リヨを三ツアルケール作つてある相  
だ、けるかに見える白ふの丘陵に何十と  
なく見える鶏舎らしいもの、聞けばウツバ  
一葺時代の小屋が使用せよほつてある。  
その場は占領政策時代に金をつかひん  
とん／＼とふぶきの新鶏舎を建て借金さ  
す／＼と大きくしたものでらうい。

何とていもその規模の大きさ、たとへ  
ようもない広大なものである。借金であ  
らうと何であらうと誰彼には、まねも出来  
ない仕事を、よくやつたものだと思へば  
は居られぬ。

次は野球場。アルキバンカーもあ  
るとスコアボードもあり、バスター球場  
と似た大さだが設備はエバの方がまさつ  
てゐる。球場の手入れはエンジャーが  
使はる。トラトラと軽く鋤いて、その

あとをローリングをかけて、たまたまつてしま  
ふ。誰か一人午前中作業すると出来上つ  
ていふ。さすか野球場王國エバ農場だ  
けあって、これには頭がさがる思ひである。  
「まだおぢいアレートに立の人ださ君、若  
いもんは敗けず、つこう投げやるんだ」と  
浜村さん、大いにエバイズムを發揮する。  
今度は何種鶏を見ても、これ故へと日盛りを  
西側の四十枚棟に案内した。セウリマの  
横を通ると一人の娘さんが男装で籠のよ  
うに低いカローツサで水と運んでゆくのに  
ま会つた。普通タンボールの二倍位の大  
楕圓の合意が、その要領のよいこと、馬は  
ゆるマンソで水箱の前へく、とひとりで  
ケヤンと止まる。それでも此の給水の  
回三時間位かゝるといふから、いかに鶏舎  
が深山あるかも想像がつくであろう。

その鶏舎も駄鶏は、すっかり整理してあ  
る。元氣澄みたる奴ばかりである。  
「エバハンパのヒントは出さんのかね」  
「誰が少し若いので、もう少しおそくした  
どうせ此の農場も、養生の一步をふみ出し  
たんだから、何もあつてゐることはないさ。  
オオ見て買れ給へ、ここからがエバハン  
パだ」  
いや居る居る。つづれかけた予場農場と  
は少し話がちがつてゐるワイと思ふ。足  
山の鶏だ、以下次号



### エバ農場は

エバ派に立ち直りました  
産卵八割の正し血統  
強健を誇る 運まじいヒント  
エバ式イモ養鶏を御研究下さい  
ヒントの御取次は左記でございます

バスター居住地 代理人 バスター郵函一四四  
パクリスタ全線

上 西 泰 治

バスター養鶏の危機を突破するには  
産卵の多い血統の強いヒントと飼ひ  
安い飼料を葉配するより、他によい  
方法はありませぬ



鑑別率九五%保証  
それ以上雌が出た場合は  
同額の雌と取替えます  
責任 販 賣

# デザストレ 三件

その一

脚の皮を剥ぎとらる

去る三月六日十三時頃ウエオン街道で、  
ツラ区入口附近で、ウエオン街道で、  
のカミエオンとウエオン街道で、  
ニオンが危く衝突し相にぶつたが、あぶな  
いとこみですり抜けた。車の方は、それ  
車道を降りたが、佐藤と人の車には、  
ルンラ方面から、ルンラ街道で、  
登が数名復業して、ルンラ街道で、  
の強に走る男児がカルサの外の脚に、  
を連れていたが、たまたま、あつとい  
ふ脚の皮が肉もろとも、はきとられ、  
と脚の皮が肉もろとも、はきとられ、  
まっした。それが、痛使に、  
騒がだのたが、全治一ヶ月の重傷である。  
幸に、情家一人の犠牲で、他の男女児童は、  
無事を得たといふ。

その二

ジャレジネーロ 引くりかへる  
同じ日の午後四時頃ランシャリア登ッパ  
行の乗合自動車がいタードの坂を全速  
力で降りつめたところ、故障を起し、  
と下る拍子に、凹地に車輪を落ち、  
で、ガリンと横に倒れたが、両側が崖にな  
ているので、横転せず、乗客四名が、  
まオオコを打つた程度で助かった。バ  
トスから急激車が出かけて引つた。未  
たが、今日はセスタス、  
が……と。

その三

積荷の真最中コイルが、  
去る一日といふから一寸旧聞かも知れぬ  
が、バスター組前で、  
ソに積み、  
は、  
の、  
ツンと切れたが、  
んは、  
上の、  
ドの、  
びて、  
なく、  
たもの、  
述の、  
んの方、  
同情が、

## ソロカバナ・バスター・アゼンシア

ソロカバナ鉄道のアゼンシアバスターは去  
る三月一日より閉鎖し、  
着、  
を、  
ある、

# 雷公蚕室を焼く

去る六日ナウ区方面は、  
さ、  
同、  
落ち、  
手、  
鳥、  
幸、  
り、  
た、  
右、  
の、  
の、  
ら、

## FOTO-COMETA REVELAR-FILM IMPRIMIR-FOTO RETRATO

コメツ夕寫真館謹製の

貴下の御肖像は

藝術寫真として

香り高いものです

新婚の御寫真は

本館の最も得意と

するところ

其他集合寫真・記念寫真・

見合ハの御姿!

一ツツマに魂のこもった製作を致し、

〔アソル各役には親切に御指導致します〕

フィルム現像、焼付、

天然色寫真の御寄上をいたします

コメツ夕寫真館

古田正雄

## 念腹選 (三月三日夜念腹先生)

間引菜 歓迎句会二回目

- 菜を間引くアルミの鍋をさけて来し 春歩
- 拔菜汁ビートのニしてしまひけり 糸音
- 残す菜のみんを傾く小菜を引く 北眼
- 間引菜のほらりと計に入れるほど さわ
- 小菜汁に少し入れるや味の素
- 教職の任地きまりぬ摘菜汁 秋扇
- 間引菜をくれて黒胡椒は水足しぬ 心
- 間引菜を貰って移転する近き 一秋
- 手傳ひの女も摘菜持ち帰る 奇奏

二板に水

上野袖子女史講演

M人、二月廿五日の上野さえの話、さいたか、どう思ふ  
S、よかったですと思ふな。午後の部と夜の部と二回  
共、さいたが、夜の部の最後のしめくりが殊に  
よかったですと思ふ。

M人、また正直について、あす二が厭々巻だなをもう  
いって先礼だが、世の宗教家といふ人達、べん  
ろんを以ってまう人達でも、あ、うまく言へない  
もんだ、樗牛は文は人なりといったが、樗牛も  
亦人なりといへるね

S、昔の説教僧の名残り見たいものが上野さんにも  
もあるね、この御同行衆といわれないのが、取柄  
だ、感極まってるよ、一本調子の御廻りとな  
る、ありやア一寸いたゞけるね

M人、フッフ、僕も同感だね、あれがないと波  
鼓演説だ、北海道、本州、四国、九州、の限  
られた狭い日本に八十萬の同胞が舞舞のいて居  
るのであります、此の苦しい日本の現情に思ひ  
を致されまして、当スラシルにお住みの皆様方  
が祖國日本再興の爲めに声援を賜りますす  
るならば、とと人の中たり、新しいククアンと  
唱むように、當ふれぬのい音だけども、さもち  
がよい、いようし、かりなると声援がけいね

S、それほど力がはいついた、説教イヤな心  
ありや。しかし僕らはメソク、したお説教より  
あつ、いふ事あまーいのがよい。

「此の程度に日本の國土と日本の國民をお守  
り下さいますならば、私の身はいかようになり  
ましようとも、いといは致しませぬ、此の程を  
に、と陛下とコソカサの会談するもの  
をすつは、おぼには、とても勇気がいるぞ、どうして  
もあの科白は、御節をつけて、噴ふが如く、心  
するが如く、マアんと、いかん、過ぎに、こゝろの  
一節は、不辯ながらも先づこれオでエ、

浪曲調で、おぼは、面白いね  
M人、もったいないことおぼす。しかしやぢを防ぐ  
方法としては最上だ、立板に水、ととまる処  
を知らずだ。

「心眼」とおぼさになりまして祖國日本の実  
情と寫とゆらん遊ばし、國民を導いて命にか  
えてお守り下さる、ありがたい陛下のおわけします  
祖國再建の爲めに御協力なさる事こそは  
人とうに、國を愛する心では御座いませんか」

S、中々うまいぢやないか、上野さん、そ、くりだ  
M人、馬鹿にするナ、しかし、あの「心眼」は、さ

三三三

デフリーリヤ

いたします

遠近問はず、いつでも出張します  
サッコ御入用の節は御用立申上ります  
又御指定の場所に運般いたします  
すべて御客様本位

誠実勉強の当店へ、  
御用命下さる様願上ります

フレシホシテ、ウナルガス街三七五

平井俊雄  
山内武彦

笑話 同感、同感！

セヨシラ「あらッあなた！女中なんかには、べー  
シヤなさんなんて、あたしあきれたワ」  
ドーン、「いやワシも驚いたよ、お前が、るすか  
と思つていたのに、」(平井俊雄より)

たね、上野さんの、おぼされる朝、「心眼」を  
聞いたある人が宿に上野さんを訪ねて「先生  
私は、今迄心得ちがいでござりまして、昨  
夜先生のお話を伺ひまして、今迄の自分らの  
行為の、まちがつていたことが判りましたと心  
境を打ちあげた人があつた相だ。

S、ひとりでもさういふ人のあつたことは大した収穫だ  
又折りがあつたら話の内容について批判して見  
よう。

おぼ田氏に書答へ。(M人より)

おぼ田先生講演感想に關する私の一文に対して  
は、御意ありがとう。貴下は、あの講演を、きいて  
居られぬ由ですから、一寸くひちがいがあります。  
私は、長か家の教義に対して批判をしたので  
なく、おぼ田先生の論議に対する感と述べた  
近です。おぼ田先生十九卷「重福篇」と読みましても  
私の感に變化のなかつたことと申上げて書答へ  
いたします。

来る三月十九日、二十日、夜八時より

坊々木邦先生著作

現代ユーモア小説「次男坊」の映画化

皆さんお見落しなきよう

シネ・パンテラテス。へー、



